

J08 人間の主観の数値化：  
見えない価値の計測についての試行（ポスターセッション：ジュニア部門）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 勝見, 沙奈, 松村, 朋花, 吉村, 瞭, 神田, 健志, 澤村, 遼, 小林, 大晃 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/10438">http://hdl.handle.net/10297/10438</a>

も、今回の提案経験を生かして参加していきたい。

(先端情報学実習・オープンな情報サービス計画提案方法の研究とその実践, 担当教員: 湯浦克彦, 遠藤正之, 高口鉄平)

J08

## 人間の主観の数値化—見えない価値の計測についての試行—

勝見沙奈 (情報科学科), 松村朋花 (情報科学科), 吉村瞭 (行動情報学科),  
神田健志 (情報科学科), 澤村遼 (情報科学科), 小林大晃 (情報社会学科)

本研究は、明示的に数値化されていない様々な情報の価値を計測する研究の一環として、AHP (Analytic Hierarchy Process; 階層分析法) を用いて人間の主観を数値化 (客観化) することを試みたものである。

AHPは意思決定手法の一つであり、意思決定場面において考慮する複数の要因が定性的で数値化ができないようなときに、それら複数の要因間の相対的重要度を数値化する手法である。

本研究では具体的に、大学生にとって身近で、関心が強いと考えられる「恋愛に関する意識」「旅行への意識」の2つをテーマとして取り上げ、「恋人に求める要素として重視するポイント」「旅行先を決定するときに重視するポイント」という「主観」を数値化することを試みた。分析に当たっては大学生へのアンケート調査を実施し、得られた82名の回答をもとにAHPによる分析を行った。

分析の結果、「旅行先を決定するポイントとして食事よりも観光名所のほうが約1.3倍重要である」といった客観的な評価が可能となり、価値を計測することの重要性を把握することができた。

(先端情報学実習・見えない価値を測る～情報の経済価値分析プロジェクト～, 担当教員: 高口鉄平, 木谷友哉)

J09

## 言語理解と対話を行う人狼知能エージェントの実装

小川ちひろ (行動情報学科), 滝波秋穂 (行動情報学科), 箕輪峻 (情報学専攻),  
三原直樹 (情報科学科), 柴淳 (情報社会学科), 狩野芳伸 (行動情報学科)

本研究プロジェクトでは、自然言語 (日本語) を入出力に用い会話ゲーム「人狼」を自動対戦する人狼知能エージェントを実装する試みにおいて、下記の発話解析部分と発話生成部分とを実装した。人狼知能プロジェクトが開催する人狼知能大会に参加し、人狼知能エージェントの作成を通じてより自然な対話システムの構築を目指している。

我々のエージェントは、内部的に独自に定義した句構造風の簡易言語表現を用い、自然言語表現との間で変換を行っている。変換には、係り受け関係や格解析といった深い自然言語処理の結果を利用している。これに基づき、プロジェクトでは特にゲーム戦略的に有意な対話に焦点をおき、取得された発話情報を基に、根拠が結び付けられていない発話への質問や新たな発話を生成するエージェントを実装した。

人狼知能大会では、機械間の自動対戦を行い、審査員の主観評価に基づき自然言語部門の技術賞を受賞した。また、主催側のデモンストレーションとして、アバター表示と連動させた機械対人間の対戦を行った。